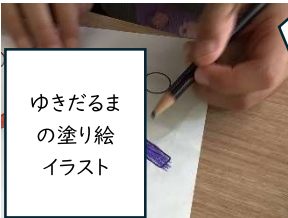
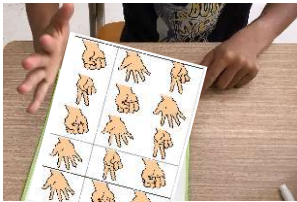


校種 (学級種別)	小学校 (知的障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 の実態	<p>Aさん(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目と手の協応動作が苦手、書字や描画がうまくできない。 「書くこと」に抵抗があり、プリント学習を嫌がる。 <p>Bさん(2年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 字の細部の認識がうまくできず、字を正しく書くことが難しい。 筆圧が整わず、力が入りすぎたり、うすく雑だったりする。 	<p>目標・指導内容</p>	<p>目標</p> <p>○書字のための基本動作を身に付けることができる。</p> <p>指導内容</p> <p>Aさん</p> <p>○手の動きを目で追うこと</p> <p>○目と手を協応させながら動かすこと</p> <p>Bさん</p> <p>○字の細部に注目しながら見ること</p> <p>○手首や指先の色々な動きに慣れること</p>
指導の経過・工夫点・子どもの変容	<p>○指導・支援の実際と工夫点</p> <p>～「かっくんタイム」の取り組みを通して～</p> <p>*滋賀県教育委員会のHPにあった「かっくんタイム」をそれぞれの児童の実態に合わせて実践した。国語の授業の始めの活動を「かっくんタイム」の時間として、主に体を使う活動と鉛筆を持って取り組む活動の2本立てで継続して取り組んだ。AさんとBさんは、ともに2年生で同じ時間に支援学級を利用することが多いので、体を使う活動は同じものを、鉛筆を持って取り組む活動はそれぞれの実態に合わせて準備をした。</p> <p>体を使う活動</p> <p>① チェーンつなぎ ②ボールキャッチ ③お手玉 ④まねまね体操</p> <p>⑤矢印体操 ⑥じゃんけん体操 ⑦折り紙</p> <p>鉛筆を使う活動</p> <p>① 点つなぎ ②めいろ ③同じ文字探し ④同じ形探し ⑤ぬり絵</p> <p>○取り組みの様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>ゆきだるまの塗り絵イラスト</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 200px;"> <p>Aさん 手首や指先に力を入れながら、はみ出さずにぬれるようになってきている。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 200px;"> <p>Bさん 目で追いながら、とばさずに合う手を出せるようになってきている。</p> </div> </div> <p>※ホームページ掲載に当たり、使用教材の画像はDropsのイラスト等に変更しています。</p>		
成果と課題・今後の方向	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れとして取り組むことで習慣化でき、抵抗感少なく活動を積み重ねることができた。 Aさんについては、筆圧が強くなり、字の線が整ってきた。 Bさんについては、字の細部の認識が以前よりもできるようになり、初見の漢字練習でも正しく形を認識して形を書くことができるようになってきた。 算数のはじめの時間には、「かずかずタイム」として指先を使いながら具体物を数える活動を取り入れており、こちらでも意欲的にとりくむことができています。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの児童の困りとそこにアプローチする方法が本当に適合しているのか、しっかりと考える必要がある。 継続して取り組むことで見えてくる成果もあるが、成果が見えにくいことも多々ある中で、どの活動を選び実践していくか、複数の目で見ていく体制があるとよい。 		